



賃上げに取り組む企業を支援！ 助成金・補助金支援策まとめ

最低賃金の引き上げや人件費の増加に対応するためには、企業の生産性向上や雇用環境改善が欠かせません。賃上げに取り組む企業を後押しする各種助成金・補助金の支援策をご紹介します。

業務改善助成金

事業場内で最も低い賃金(事業場内最低賃金)を引き上げた上で、生産性向上につながる設備投資や業務改善を行った場合に助成されます。

助成額	助成率
30万～600万円	3/4～4/5

対象経費例

POSレジ導入による在庫管理効率化、
専門家による業務フロー改善、顧客管理システム導入など

最低賃金引上げを行う中小企業にとって、設備投資と賃上げを同時に後押ししてくれる制度です。

キャリアアップ助成金

有期・短時間・派遣労働者を正社員化したり、処遇改善を行った事業主に対して助成されます。

対象

雇用保険適用事業所ごとに「キャリアアップ計画」を作成し、賃金規定改定などを実施

支援内容

賃金規定等改定コース例

非正規労働者の基本給を3%以上増額改定した場合、助成金を交付(例:3%以上4%未満=4万円、6%以上=7万円など)

賃金アップや雇用安定化を進めたい事業者には有効な制度です。

補助金

IT導入補助金



業務効率化やDX推進のためのITツール導入を支援。

会計ソフト、受発注システム、ECサイト構築など幅広い分野で活用できます。

補助上限	補助率
最大450万円	1/2～4/5

ものづくり補助金



新製品・サービスの開発や設備投資を支援する制度。

生産性向上や事業革新を狙う中小企業に適しています。

補助上限	補助率
最大4,000万円	1/2～2/3

省力化投資補助金(一般型)



人手不足への対応として、省力化や自動化につながる設備・システム導入を支援。

製造業・サービス業を問わず幅広い業種で利用可能です。

補助上限	補助率
最大1億円	1/3～2/3

その他の助成金例

人材開発支援助成金

- 職業訓練を実施した企業に対し、訓練経費や期間中の賃金の一部を助成し、人材育成を支援する制度

働き方改革推進支援助成金

- 労働時間削減や年休取得促進などに取り組む企業に対し、専門家の支援や設備導入経費を助成し、働き方改革を後押しする制度

※詳細は各公募要領等をご確認ください。

賃上げを進める企業に助成金・補助金は心強い支援策です。
上手に活用して経営の安定と働きやすい環境づくりに役立てましょう。



▲動画でも
ご視聴できます

借入金の利息の計算方法とは？

シミュレーションでの利息や返済金額の注意点を解説

借入を検討する際、金利によって利息がどれくらいかかるのか分かりにくいものです。実際に借りる前にシミュレーションを行い、計算方法や返済方法を理解しておくことが大切です。

借入金の金利と利息とは

借入金の返済額は「元金＋利息」で構成されます。

■ 金利:借入金額に上乗せされる金額の割合

例:金利3%なら1年あたり3%が利率

■ 利息:借入金額に上乗せされた金額

例:1万円を借りて1万1,000円返済なら利息は1,000円
(=金利10%)

※上限金利の範囲内で金融機関が自由に設定可能。借入金額が小さいほど金利は高く、大きくなるほど金利は低くなる傾向があります。



借入金の利息の計算方法

■ 利息 = 元金 × 利率 ÷ 365日 × 借入日数 (うるう年は366日で計算)

金利が「年〇%」と表示されていても、実際の利息は日割り計算で算出されます。元金に利率を掛けると1年分の利息が求められ、それを365日で割って1日あたりの利息を計算し、借入日数を掛けることで最終的な利息額となります。

計算例

年2.5%で2,000万円を借入し、3年後に返済する場合

$2,000万円 \times 0.025 \div 365 \times 1,095日 = 150万円$

年6.3%で300万円を借入し、5年後に返済する場合

$300万円 \times 0.063 \div 365 \times 1,825日 = 94万5,000円$

借入金の返済方法

一括返済

借り入れた金額をまとめて一度に返済する方法。利息を抑えられるメリットがありますが、資金調達のために借入した場合は資金が一気になくなるため、資金繰りが悪化すると黒字倒産のリスクがあることも念頭に置いておきましょう。

分割返済

借入金を分割して返済する方法で、次の2種類があります。

元金均等返済

- 元金部分を一定額で返済していく方式
- 返済当初は返済額が多いが、徐々に少なくなる
- 利息が少なく、総返済額も少ないのが特徴

- ・ 元金返済額 = 借入金額 ÷ 返済回数
- ・ 利息返済額 = 残高 × 月利
- ・ 毎月返済額 = 元金返済額 + 利息返済額

元利均等返済

- 毎月の返済額を一定にする方式
- 当初の返済額は抑えられるが、利息負担が多く、総返済額は元金均等返済より多くなる

- ・ 毎月返済額 = (借入金額 × 月利 × (1 + 月利)^{返済回数}) ÷ ((1 + 月利)^{返済回数} - 1)
- ・ 利息返済額 = 残高 × 月利
- ・ 元金返済額 = 毎月返済額 - 利息返済額

金利や利息の注意点

適用金利がいくらか

- 金利は「2～3%」のように幅を持って表記され、実際の適用金利は2.5%や2.8%など条件によって変わる
- シミュレーションする際は、高めの金利も想定しておく
- 利息制限法の上限を超える違法業者もあるため、利用は避ける

返済計画は考えているか

- 借入期間が長いと、毎月の返済額は少なくなるが総返済額は増える
- キャッシュフローが不安定なら長期返済、安定しているなら繰り上げ返済が有効
- 借り換えは有利な条件に変更できることもあるが、取引関係への影響に注意



利息計算に

シミュレーションツールを活用する

インターネット上には、借入金額・金利・期間を入力するだけで、毎月の返済額や利息、残高を自動計算できるシミュレーションツールがあります。計算の手間が省け、返済計画を立てる際に便利に活用できます。ただし、シミュレーション結果には手数料や諸費用は含まれないため、実際の総支払額とは異なる場合があります。正確な返済額を知りたい場合は、必ず金融機関に直接確認しましょう。

手元のキャッシュを補充するために借入は重要ですが資金繰りを改善するには、自社の財務状況を細かく分析し、今後の経営に対する判断をすることが重要です。まずは当事務所までご相談ください！



税理士法人光パートナーズ（認定経営革新等支援機関）

株式会社オフィスミツヒコ 代表取締役・税理士 光廣 昌史

〒730-0801 広島市中区寺町5番20号

Tel 082-294-5000 & Fax 082-294-5007

URL <https://www.office-m.co.jp/>

～認定支援機関で対応できます～

- ・各種補助金申請
- ・経営改善計画書の作成
- ・創業支援
- ・優遇金利での資金調達 など



▲動画でも▲
ご視聴できます